

CONTENTS

特集／歴史的建造物を現代に活かす

巻頭言	歴史的建造物の保存・活用・開発	鈴木博之	4
論考	アメリカにおける歴史的建造物 活用のための諸施策	西村幸夫	8
事例 報告	① 町のシンボルとしての歴史的建造物 —— 道後温泉	岡本 努	12
	② 自然や文化遺産の保存活用と ボランティア活動	米山淳一	14
	③ 歴史的建造物の保存活用と野外博物館 —— 川崎市立日本民家園	大野 敏	16
	④ 企業と歴史的建造物の保存活用 —— 岩手銀行中ノ橋支店	岩手銀行企画部	18

連載

● 随想／地方都市のホールへの提案	タケカワ ユキヒデ	20
● 地域からの文化発信／博物館・美術館紹介⑤	もちがせ 流しびなの館	22
● 後世に残そう我が県の文化財⑥／宮城県	多賀城跡	25
● 人間国宝を訪ねて⑩／古典落語	五代目柳家小さん	28
● 著作権法講座Q&A／5		30

ACA(Agency for Cultural Affairs)NEWS

・ 太神楽養成研修の開講—研修生募集のお知らせ	31
・ 第51回 日本芸術院賞授賞式を挙行	32
・ 国宝・重要文化財の新指定(美術工芸品関係-1)	34

イベント案内

・ 奈良国立博物館「甞る正倉院宝物」／43	・ 芸術文化振興基金ニュース／46
・ 京都国立近代美術館「ハンガリー—世紀末建築と応用美術」／44	・ 9月の国立劇場／47
・ 東京国立近代美術館「辰野登恵子展」／45	・ 表紙解説／編集後記／48

最近、地方都市のホールでコンサートをする機会が多い。呼ばれればどこにでも行くので、今まで訪れたことのない街にも出掛ける。

そういう時にびつくりするのは、そこに建てられている公立のホールの立派さだ。

収容人数の数（キャパと僕達は呼ぶ）が多いこともさることながら、外観から内装まで、素晴らしく現代的で目を見張ることが多い。

しかし残念なことに、素晴らしい建物がある所ほど、その使い道に困っているらしい。

なかなかホールが稼働しないということと、催し物をして人も人が集まらない、というのがその主たる悩みだ。

そのホールが新しければ新しいほど、人里離れた所に、急にボツンとそのホールだけが建っていることが多い。

これが一番まずい。

ホールに人が来ない、又は、使われない理由は、そのホールで行われている催し物の中身が面白いとかつまらない、ということ以前に、実は、人々がそのホールに馴染みが薄いという事実にある。

そもそも、ホールがあれば、そこが自然とその街の中心になって、人が集まって来るはずだ、と考えるのは間違いだ。

本来は、その全く逆で、ホールは、その町の中心に建てられるべきものなのだ。

ただ、最近では、土地の問題を含めて、そんなことはできないので、しかたなしに、人里離れたところに立派な施設が出来てしまう。

これが、全ての悲劇の始まりな訳だ。

僕の場合、そういうホールの関係者の人達にお会いすることも多く、そのことに関して、相談されることも多いのだが、僕が必ず言うのは、まず「ホールの周りに人が集まってくるようにしたらどうか」という提案だ。例えば、ホールの前庭を使って（たいてい、ホールが立派な場合は、前庭も広い）フリーマーケットをやるとか、毎日曜には、クラウン（ピエロ）の人達を呼んでジャグリングをやらせよう、ともかく、ホールの周りに人が集まってしまおうような企画を実行すればいい。

ホールの周りに人々が集まるようになれば、ぜったいに、ホールの中で行われている催し物にも人々の興味向けられるはずだからだ。

地方都市のホールへの提案

タケカワ ユキヒデ

『急がば回れ』を地でいった考え方だが、けっこううまく行くのではないかと思っている。

人々がホールの周りに集まって来るようになったら、次は催し物の中身にてこ入れをする番だ。

その場合大切なのは、一度来た観客の足をもう一度このホールに向けさせることだ。

僕等はそういう人達をリピーターと呼ぶ。

つまり、ホールの稼働率と集客には、リピーターを増やすことが肝心なわけだ。

その為に、僕は、どんな催し物の時も、観客を感動させるべきだと思っている。

ピアノの発表会でも、老人の為の慰安会でも、カラオケのど自慢でも、各種学校の入学式でも、催し物を開く時は、たとえ少数であったとしても、観客を感動させることが必要だと思っている。

感動を覚えた催し物とその感動を体験した現場であるホールは、記憶の中で深くつながるものだからだ。

つまり『あのホールで感動した』という思い出を人々に持たせるのだ。

あらゆる催し物で、観客を感動させる、なんて不可能だと思いかもしれないが、実はそれは、それほど難しいことではない。

実際、僕は友人の結婚式に出席して、感動したことや何度かある。

型にはまった、つまらない結婚式が多い中で、その時、僕を感動させたのは、まぎれもなく演出の力だった。

つまり、催し物がつまらないのは、その催し物の種類によるのではなく、その催し物の演出の善し悪しによるのである。

僕は、優れた演出家と照明のプランナーと音楽家さえいれば、いかなる催し物でも、観客を感動させられると信じている。

そこで、僕は、二つ目の提案をした。

地方都市のホールは、優れたセンスを持つ一流のスタッフと契約を結んで、一般の人々の開くなんでもない催し物を、観客を感動させる出し物にレベルアップしてもらおうと思う。

そうすることによって、ホールのリピーターも増やせるし、同時に、その街の文化のレベルも知らないうちに向上させることができると思うのだ。

それから、これは、特に僕がいつも思っていることなのだが、もし、その都市にホールが大中小と、数多くある場合は、一つぐらいロック専用のホールにしたらいかがだろうか。

昔と違って、今はロックバンドも、相当お行儀もよくなったから、備品を壊したり、薬屋で暴れたり、ということも少なくなった。

それに、今は、どこの地方都市に行っても、アマチュアロックバンドが山ほどある。

そういう若いミュージシャン達に、安い使用料で、定期的にライブをやらせてあげれば、その界限が、賑やかで活気がつくのは、間違いないと思うのだが。

エッセイ

随想



タケカワ・ユキヒデ / 1952年埼玉生まれ。
'75年ソロデビュー。翌'76年ゴダイゴを結成。
「ガンダーラ」「モンキーマジック」など数多くのヒットをとばす。'85年解散後は歌手、作曲家、小説家、コメンテーターとして多方面にわたって活躍。ニューシングル「あまえばとでもWonderful」も好評。

表紙解説 史跡城輪柵跡と国府の火まつり

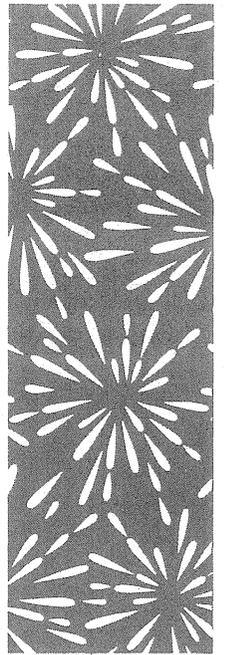
城輪柵跡は、山形県酒田市の市街地北東約8kmに位置する総面積52万㎡の広大な遺跡である。昭和6年、外郭をめぐる角材列の一部が偶然に発見され、初めて発掘調査された。その結果、一辺720m方形の遺跡の概況が明らかとなり、翌昭和7年4月25日史跡指定を受けた（昭和56年2月23日に追加指定）。

遺跡の中央には、政庁跡が確認され、正殿を中心に後殿・東西両脇殿・後殿付属東西向建物等が整然と「門」字形に配置されている。またこの周囲を一辺115mの築地塀等が囲んでおり、各辺の中央には門が開き、南門前面には付属する東西の建物や広場・南大路・井戸等が確認されている。このような調査結果などから、城輪柵跡を平安時代の出羽国府跡とする考え方が有力となっている。

昭和59年から保存整備に着手し、平成4年3月には文化庁の史跡等活用特別事業により、政庁南門、東門、および築地塀の一部が実物大に復元された。一千年の時を経て、出羽国政府の姿が一部とはいえ現代にのみがえったのである。

現在、復元建物を含めた史跡の活用として、伝統文化の伝承と発信を目指し、また地域間交流の場として「国府の火まつり」を実施している。酒田市のシンボル、獅子を統一テーマに、沖縄県糸島に村の琉球民俗舞踊や、インドネシアのカムランなどを招き、民俗芸能の祭典を繰りひろげている。毎年8月上旬、午後から夜にかけて実施し、郊外に位置しながらも昨年は2万6千人を超える人びとが、城輪柵政庁に集った。

美しく整備された城輪柵跡政庁は、普段でも学校教育や社会教育の学習の場として、多くの方に利用されている。（酒田市教育委員会文化課文化財係 清野 誠）



文化庁月報 8月号 (通巻323号)

平成7年8月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行—株式会社ぎょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-88 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03(3571)2126

販売 03(5349)6666

振替口座 00190-0-161

印刷所—(株)行政学会印刷所

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価530円(本体515円)送料76円

年間購読料6360円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

（株）ぎょうせい 営業第一課 宣伝係

電話03(5349)6657 (ダイヤルイン)

©1995 Printed in Japan
ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。

編集後記

歴史のある建造物に遭遇したとき、はたと立ち止まりノスタルジックな気分になってしまうのは私だけでしょうか。古さがまた美しくもあり、何とも言えない安心した気持ちになってしまうのも私だけでしょうか。

今月は歴史的建造物の特集でした。「歴史」ある建造物は、全国津々浦々にあります。いつも何げなく見ていた建物が、案外、文化的にも貴重な存在であったりする場合もあります。見慣れている身近な建造物について、その歴史をたどり、意識をもって見直すとき新たな発見に出会うかもしれません。

また、歴史的な建造物は、それだけで価値を形成するよりも、周囲の環境と一体となって意義を有している場合が多く、その地域が持っている特性や固有の文化的価値を担っています。その建造物をシンボリックな存在として、潤いのある個性的なまちづくりが進められている場合もあります。こうした歴史的な建造物の保護と活用、地域の振興の適切な調和を図ることは、そこに住む人々がどれ程その地域の文化と歴史を育み、愛しているかのバロメーターともなるでしょう。（も）